

みちのく潮風トレイル全線開通

みちのく潮風

トレイルとは

「みちのく潮風トレイル」は東日本大震災後、被災地の自然や震災からの復興状況を感じてもらうため環境省がルートを選定したものです。

青森県八戸市から福島県相馬市までの東北地方太平洋沿岸部の4県28市町村にまたがるこのロングトレイル（長距離自然歩道）は全長1,000kmを超える道です。

この道の特長は東北太平洋沿岸ならではの迫力ある海、それに加えて美しい山や里など多様な自然環境を見ることが出来るコースにあります。

コースを散策しながらその土地ならではの美しい海、山の幸を楽しむことや、地域の方々とふれあうことで今まで知らなかった人々の暮らしや文化に触れることができます。また、津波を中心とした震災の被害の大きさを知ることが出来るコース設定を

しており、あらためて自然の恐ろしさも感じることが出来ます。

全線開通を

記念して

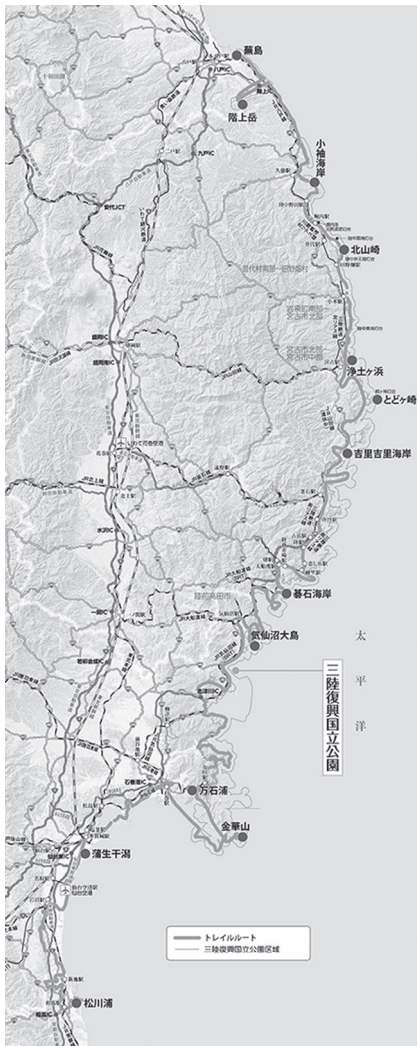
今年の6月9日、未開通であった4区間が新たにつながったことで「みちのく潮風トレイル」が全線開通しました。これを記念し、同日に名取市文化会館において「全線開通式典・シンポジウム」が開催されました。原田環境大臣や4県知

事、関係自治体首長などが出席し、町からは大堀町長らが参加しました。環境大臣による全線開通宣言や関係自治体の首長らが手をつないで全線開通を祝いました。

また、新地町のルートを含めた、実際のコースを歩くイベント「みちのく潮風トレイルin相馬・新地」が9月15日・16日の2日間にわたり開催されます。

このイベントはみちのく潮風トレイルの南の玄関口である相馬・新地の正規路線を活用したウォーキングイベントで、新地町は2日目に「白幡のいちょう」や「しんち地場産市場めぐりや」、町のシンボル「鹿狼山」をめぐるコースになっています。

この「みちのく潮風トレイル」が開通したことによって他の地域の新たな魅力を発見することはもちろん、そこで生活している方でも今まで知らなかった地域の魅力を再発見することが出来るかもしれません。



▲青森県から福島県までのコースが全線開通した



▶各首長等が手をつなぎ開通を祝つ

○新地町のコース

新地町のみちのく潮風トレイル区間は平成26年10月に開通され、案内看板が新地町総合公園の町民野球場レフト側に設置されています。

現在、新地町には19のポイントがありますが、それらは主に町中心部から山間部をめぐるコースに設定されています。

基本的には平坦なコースですが、鹿狼山は道中に、坂が急になる箇所がありますので、しっかりとした道具、服装で無理はしないで歩く必要があります。

新たな魅力を見つけにみちのく潮風トレイルを歩いてみませんか。

ここではコースに設定されているポイントの一部を紹介いたします。

至仙台



至東京

「鹿狼山」

福島県と宮城県との県境に位置し、年間を通じて様々な登山コースを利用し、登山を楽しむことができます。

頂上からは太平洋を一望することができ、その道中で「カタクリ」や「アジサイ」などの季節の花を楽しめます。



「二羽渡神社」

江戸時代にこの地に移り住んだ家山和尚が建立したといわれるあんこ地蔵。

毎年、お盆の時期にはあんこ地蔵供養祭・盆踊りが開催され、和尚が大好きだったあんこを地蔵の口もとに塗って供養します。



「右近清水」

新地の三清水の1つで「平成の名水百選」にも選ばれています。

桜のスポットとしても有名で、春には池を囲む多くの桜を目にすることができます。

また、平和と震災の犠牲者を追悼し、「平和と鎮魂の鐘」も設置されています。

